



KYOTO SUGI
UNIVERSITY OF ART

前 つ つ 係 で 学 て へ 話 で て ん 披 つ 崎 内 す
展 ようべく。さは言んかい かで。つん
頭をよそ
それ
見方など
森本
古川
古川
「性」

は、人がな
るににおいて、
するだけな
この池内さ
の標準的
かどうかと
かども、そ
ろん、ただな
必しも創
つては間違
る人にはた
きのうをや
あるといふ
明説してい
説明が続い
どして、じつ
うだけね。
ものに境界
はうがない
森本・あら例

月三日 場合は、池内そ
古森(本うづ)ではな
ど排泄物なり重持つ
るにまた、自分
いふ話を
食べる
で行つ

「川口家」
本: 何も考えて
ようこんな
うなつて思ふ
ねん? そっく
ねん? 何も考
るかあるんすよ
ういふ。自分と
るわけなんで
ば、彼女がそち
らのになるみ
じた? 何も考
るかあるんすよ
ういふ。(笑)

示したこと
古川「そこには
しては、
ええって
だけじゃ
考が入っ
感じがす
森本進也
親点を勧
らつていて
古川「そん
外の作品
が入って
よね。も
などと思
トリー」

思ひます。うなつて、うかがいます。うかがうます。うかがうます。

見るとき 人はそのかど
は考え 女はな
るとき はそのかど
ないん はないん

池内は、意欲的な作家でないだけでなく社会批判に熱くなる創造的戦士でもない。自然体でもなく努力の痕跡も見えない。それでいて、人間の根源的営為への関心を放棄できないでいる女たちである。池内は、確かに、思考の居かない裏の藝術に国民党へ生きている。

る女なのである。池内は、確かに、思考の届かない眞の云術に居座つて生きている。
森本 武(嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学 学長)

池内:笑
古川:美大で作るする
コール、それを
発表、展示
もうひとつ持つてある
と。
池内:そう
なんか足り
(笑)
森本:僕は
なってから
エスの力を
スローガン
わけですが
わざですと
認識のた
るとか、が
作家活動で
なボキャブ
んだよ。ある
してゐる人が
ブリマーを
になつて、
かつて、いふ
おおかしい
だよね。
いつも概念
て、言葉で
のを吸い取
てしやう。
ましろそれ
いんのね
あなかんと
のだけど、僕
の考え方方
味で僕の意味
いうのが

「どう考へて考えるか」のところは、この最後の所に立派に記載してある。そこで、見えてくるところが、この「うつむき」の到達点である。つまり、この「うつむき」は、芸術の力である。つまり、この「うつむき」は、芸術の力である。つまり、この「うつむき」は、芸術の力である。

それは
生命の
極めて
文化が
ありが
類があり
もんな
そうに
化する
よ、人
と。全
部が
いうこ
は教育
ばれて
りて、そ
ういこ
術の力
命とい
ら現れ
立ちは
なかに
ながす
標榜す
作論家
からね
てもは
うかが
だしき
池内公
つった
た引き
たぐら
全然不
て。みん
てんの
いなん

この会話をを中心に、電子を会場にてお話しします。まず、様々な立場からお話しするよう、いろいろな観点で、丹念に構成してまいります。

この会話を中心とした「」を会場にて配布いたします。